



特別天然記念物のアマミノクロウサギ

大口寄付で姿勢アピール

鹿児島・アマミノクロウサギ

保護団体と狙いかみ合う

保護団体「日本ナショナル・トラスト協会」(東京)。今年1月に島の民有地約100鈔を

鹿児島県・奄美大島の特別天然記念物アマミノクロウサギがすむ森を守るべく、環境保護団体と大企業による連携の動きが出ています。資金援助を求める団体側と自然保護への協力姿勢をアピールしたい企業側の狙いがかみ合った格好で、国内では異例の大口寄付も実現した。団体側は「イヌワシ、ツシマヤマネコといった希少種の保護にもつなげたい」とさらなる展開に期待を膨らませる。

希少種すむ森林 企業も守ろう

グループ会社が島に唯一就航している日本航空(東京)は、5区画で計422万円を寄付した。命名権を与えられるため「JALアミノクロウサギの森」と名付け、奄美大島と徳之島にしかないといわれる希少なクロウサギの生息環境保全に取り組む考えだ。

担当者は「そこに豊かな自然があるからこそ旅を来しなくてもいい」と、森を守ることが島への観光客増加にもつながると強調する。「以前は環境保護と経済性は両立しないという見方が強かったが、自然の持つ経済的な価値が見直されてきている」

島内のインフラ工事に関わっている大手ゼネコンの大成建設(東京)もメールを全社員に送り、山内隆司社長を含む666人から124万円を集め、別の寄付金と合わせて151万円を提供した。同社は「環境問題を考える上でゼネコンの責任は重い。環境に配慮できない企業」というレッテルは避けたい」としている。

企業や個人の寄付金などで土地を取得し、一帯の自然環境を守る取り組みは「ナショナル・トラスト」と呼ばれる。協会が所有する土地は奄美大島を除けば富士山高原(山梨県)など全国17カ所だが、所有者が亡くなり管理できなくなった山林を譲り受けるといった特殊事情に支えられてきた面もあり、面積は計151鈔にとどまる。トラスト運動発祥地の英国の25万鈔と比べてわずかに多い。

日本ナショナル・トラスト協会の所有地一覧

1	阿寒の森	北海道釧路市
2	愛別ヒグマの森	北海道愛別町
3	那須塩原ヒカラの森	栃木県那須塩原市
4	木更津・矢那の森	千葉県木更津市
5	日の出の森	東京都日の出町
6	能登・トキの森	石川県穴水町
7	富士山高原	山梨県富士河口湖町
8	丸子カモシカの森	長野県上田市
9	安曇野の森	長野県松川村、池田町
10	長良川清流の森	岐阜市
11	瀬戸川の森	静岡県藤枝市
12	天竜・キブチヨウの森	浜松市
13	六甲・ヤマドリ	神戸市
14	有馬の森	神戸市
15	美作・水源の森	岡山県美作市
16	津山・水源の森	岡山県津山市
17	宮古島サシバの森	沖縄県宮古島市